

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | | 科目の教育目標 |
|--------------|----------------------|--|---|------------------------------------|---|--|--|--|---|-------------|---|---|----------------------|--|--|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | | | |
| 一般教養科目群 | | | | | | | | | | | | | | | 人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に採用品、応用できる感性・知性の修得を目指す。 |
| | 歴史と文化 | | ◎ | | ○ | | | | ○ | | | ◎ | | ・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりや学び、その意味について考え、探求する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への裾野を広げる。 | |
| | 人間と生命 | | ○ | | ○ | | | | ◎ | | ◎ | ○ | | ・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。 | |
| | 生活と社会 | | ◎ | | ○ | | | ◎ | | ○ | | ◎ | | ・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。 | |
| | 自然と技術 | | | | ○ | | | | | | | ○ | | ・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代もあり、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。 | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | ◎ | | | | ○ | | ○ | | | ◎ | | 国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ。 | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | ◎ | | | | | ◎ | | | ○ | ◎ | | さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。 | |
| 基礎基盤教育科目群 | | | | | | | | | | | | | | 大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること、さらには自立的学習能力や自己管理の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。 | |
| | ウェルネス総合演習 | | | | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | 健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした演習、実習により総合的に学び、考える。 | |
| 汎用的技能教育科目群 | | | | | | | | | | | | | | 学術的な手法としてのアカデミックスキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学ぶ。 | |
| | SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ | | ○ | | ◎ | | | | ○ | | ○ | ○ | | 専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。 | |
| | 情報科学 | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | 情報の取り扱いやその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使い方から始まって、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。 | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | ◎ | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | 地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。 | |
| 外国語教育科目群 | | | | | | | | | | | | | | 英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。 | |
| | 英語 | | ○ | | | | ◎ | | | | | | ◎ | 基盤英語は、大学で学修する上で基盤となる基礎力の確認と習得を目指す。主題別英語は主題に応じた内容の英語に関して、自主的能動的に学修することを目指す。発信型英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。 | |
| | 英語以外の外国語科目 | | ○ | | | | ◎ | | | | | | ◎ | 初修の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発展力を学ぶ。 | |
| | 総合科学入門講座 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | ・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 ・情報リテラシーを身につける。 ・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 ・留学その他の学習プログラムについて理解する。 | |

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | | 科目の教育目標 | |
|---------------------|--------------------|--|---|------------------------------------|---|--|--|--|---|-------------|---|---|----------------------|---|--|---|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | | | | |
| 学部共通科目 | 科学論 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ・文化・社会と自然との関わりについての理解 ・専門的知識を体系的に理解できる能力の育成 ・論理的思考力の養成 ・日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 ・日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 ・情報リテラシーの養成 ・豊かな人間性の涵養 ・高い倫理観の涵養 ・自分で問題を発見しようとする態度の養成 |
| | 情報処理基礎論 | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | 現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。 |
| | 総合科学の基礎A | | | ○ | | | | | | | | | | | | 現代日本語の基本的なしくみ(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)と、その具体的な運用を実践的に学び、高めていく。 |
| | 総合科学の基礎B | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 文化とは何かを認識し、文化現象を分析する様々なアプローチについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎能力を獲得する。 |
| | 総合科学の基礎C | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | 人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。 |
| | 総合科学の基礎D | | | | | | | | | | | | | ○ | | スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。 |
| | 総合科学の基礎E | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | | 1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。 |
| | 総合科学の基礎F | | ◎ | | | | ○ | | | ○ | | | | ◎ | | 1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。 |
| | 総合科学の基礎G | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | | ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。 |
| | 総合科学の基礎H | | ◎ | | | | ○ | | | | ○ | | | ◎ | | 高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなしくみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。 |
| | 総合科学の基礎J | | ○ | | | | ◎ | | ○ | | ◎ | | | ◎ | | ①SDGsの内容の理解 ②SDGsの取り組みが地域資源の再発見やイノベーション加速にもたらす効果の理解 ③SDGsの理解が基礎となったイノベティブなまちづくりへの応用/実践力への接近 |
| | Academic English I | | | | | | ◎ | | | | | | | | | English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。 |
| Academic English II | | | | | | ◎ | | | | | | | | | (1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。 | |
| Extensive Reading | | | | | | ◎ | | | | | | | | | eラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。 | |
| キャリアプラン入門 | | ○ | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | 大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身につける。 | |
| 課題発見ゼミナール | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 自分で発見できたことを人にわかるように説明できるようになることを到達目標に定めます。 | |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | | 【2. 汎用的技能】 | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的的思考力】 | | 科目の教育目標 | |
|-----------|---|--|--|---|--|---|------------------------------------|---|--|--|---|---|---|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | | | | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力。他者とコミュニケーションする能力。プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | |
| 科目名 | 科目の教育目標 | | | | | | | | | | | | |
| | 1)自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2)将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3)行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。 | | | | | | | | | | | | |
| 実践学習科目 | キャリアプラン | ○ | | | | | ○ | | ◎ | | ○ | 1)自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2)将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3)行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。 | |
| | 短期インターンシップ | ○ | | | | | ○ | | ◎ | | ○ | ①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。 | |
| | 総合科学実践講義A | ○ | | | | | | ○ | | | ○ | 国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。 | |
| | 総合科学実践講義B | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 1.心身の健康に関する基礎知識(医学的知識を含む)を身につける。 2.医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。 3.地域社会で活躍する能力の育成:それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。 | |
| | 総合科学実践講義C | ◎ | | | | | | | | | ◎ | 日本の経営の実態、及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。 | |
| | 総合科学実践講義D | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。 | |
| | 総合科学実践講義E | ○ | | | | | | ○ | | | | ○ | 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。 |
| | 総合科学実践講義F | | | | | | ◎ | | | | | | Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor. |
| | 総合科学実践プロジェクトA | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ | 地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り、そこに可能な日本語による支援を考え、実践する。 日本語による支援の実践を通じて、多文化共生、異文化に対する理解を深める。 |
| | 総合科学実践プロジェクトB | ○ | | | | | ◎ | | ○ | | | ○ | サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネジメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身につける。 |
| | 総合科学実践プロジェクトC | | | | | | ◎ | | ◎ | | ○ | | ・自分の意見(感じた事や考えたこと)を自分の言葉で表現できる ・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる ・スポーツの社会的機能(役割)について理解することができる |
| | 総合科学実践プロジェクトD | | | | | | ◎ | | ○ | ◎ | | ○ | 1.地域における「心と身体の健康問題」を知る。 2.地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。 3.地域における「支援の在り方」について提案できる。 |
| | 総合科学実践プロジェクトE | ◎ | | | | | | | | | ◎ | ◎ | 1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係力を身につける。 |
| | 総合科学実践プロジェクトF | ◎ | | ○ | | | ◎ | | ○ | ◎ | | ◎ | 1. 地域の課題を発見できる 2. 課題を解決するための政策をつくらることができる 3. 政策を提案(プレゼンテーション)できる |
| | 総合科学実践プロジェクトG | | | | | | | | ○ | | | | 地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。 |
| | 総合科学実践プロジェクトH | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | 実地調査の基礎を学ぶことを通じて、自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。 |
| | 総合科学実践プロジェクトJ | ○ | | | | | ◎ | | ○ | | | ○ | ・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 |
| | コース入門講座 | ◎ | | | | | | ○ | | | ○ | ◎ | 各教員の専門分野に対する導入的な広義をリレー形式で行うことで、地域創生とは何かを体系的に理解してもらう。 |

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | | 科目の教育目標 |
|-------------------|-------------------|--|---|------------------------------------|---|--|--|---|---|---|---|---|---|--|---------|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力。他者とコミュニケーションする能力。プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | |
| コース入門科目 | 地理学の基礎Ⅰ(人文地理学) | ◎ | | | ○ | | | | | | | ◎ | 経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうあるべきかが問われている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、私たちのくらしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考察するのがこの授業の目的である。授業ではチューネン、ウェーバー、クリスターに代表される古典立地論を詳しく解説した上で、現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。また、日本や世界の産業地域とその形成要因について説明する。 | | |
| | 地理学の基礎Ⅱ(地誌学) | ◎ | | | | | | | | | | ◎ | 日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、「地誌学」の命題である地域的な差異の特徴について把握できるようになること。 | | |
| | 社会変動論 | ◎ | ○ | | | | ○ | | | | | ◎ | 数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特徴を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していきたい。社会変動に関連して自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようにするのが目標となる。 | | |
| | まちづくり地域社会論 | ◎ | | | ◎ | | ○ | | ◎ | | | | 社会学や公共政策学の観点から、まちづくりに関する基礎的な知識を身につける。その際、問題解決に向けた事例の理解、改善に向けた分析手法、そこで生じる陥穽について実践に活用可能な形で学べるようにする。 | | |
| | 日本史研究Ⅰ | ◎ | ○ | | | | ○ | | | | | ◎ | 日本の通史を理解する。史料にもとづいて歴史的事実を確認することができるようになる。日本の文化や歴史についての理解を深める。日本語で論理的な文章を読み書くことができるようになる。日本の通史の中で徳島という地域を位置づけることができるようになる。 | | |
| | 考古学概説 | ○ | ○ | | ○ | | | | | ◎ | | | | 日本列島の先史時代は、教科書に掲載されている内容とは相当異なるような形で研究が進んでいる。その最新の研究成果に触れて、今後の研究テーマを模索するヒントを掴む | |
| | グローバル交渉史 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | ◎ | 1. 世界の歴史について、体系的、構造的に理解するための基礎的な知識を修得する。 2. 現代社会の諸問題、地域的課題について、その歴史的経緯を踏まえて理解することの必要性を理解する。 3. 異文化理解の難しさを学びつつ、自己の存在を歴史・社会と関連づけ理解することの必要性を理解する。 | |
| | 近現代世界の成立と展開 | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 特に、講義でとりあげる各国の近代化過程を、比較的に、またグローバルな視野をもって理解すること、学習した内容を再構成して、明快な論説文によって表現できること。 | |
| | 地域政策論Ⅰ | ○ | ○ | | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | 地域政策に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、政策を分析、政策を立案するために必要な社会科学的手法も身につける。また、具体的な地域政策にふれるようにするため、行政などの実践家にも広義をしてもらう。 | |
| | 経営学Ⅰ | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 経営戦略論に関連する主要な概念や理論を習得し、それを応用しながら、実際に戦略を策定して実行するマネージャーの視点を持って経営戦略の諸問題を論理的に分析できるようになることが目標です。 | |
| | ネットワーク・アプリケーション研究 | ◎ | | | | | | | | | ○ | | ◎ | インターネット時代の情報通信ネットワークの構築や運用管理、活用に関する知識・技術を習得する。インターネットにおける情報通信の仕組みを理解し、サーバーを構築するために必要となる基本技術を身につける。 | |
| | 国際関係論(国際法を含む) | ◎ | | | ◎ | | ○ | | ○ | | | | ◎ | 1.政治学の基本的知識を得る。 2.国際政治学と国際法の基本的知識を得る。 3.平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 4.幅広い国際的な視点から考察ができる。 5.現実主義と理想主義の両面を備えた、バランスある発想ができる。 | |
| | 憲法Ⅰ | ○ | | | | | | | ○ | | | | ○ | 1. 宗教の自由と政教分離を理解できる 2. 経済的自由と規制の意義を理解できる 3. 社会権としての諸権利の意義を理解できる 4. 立憲主義の制度としての裁判所の意義、役割を理解できる。 | |
| | マクロ経済学Ⅰ | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 目標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テーマ：マクロ経済学の基礎を習得する。 | |
| | 社会統計学Ⅰ | ◎ | | | ○ | | | | ○ | | | | ◎ | 人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。 | |
| | 社会統計学Ⅱ | ○ | ○ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | 社会科学の実証研究に必要な統計的知識を学ぶと共に、SPSSを用いた分析もできるようにする。 | |
| 行政法Ⅰ | | | | | | | | | | | | | 1. 行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。 | | |
| C言語プログラミング(実習を含む) | ○ | | | | | | | | | | | ○ | C言語を用いて簡易なプログラムを作成できるようにする | | |

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | | 科目の教育目標 |
|------------|-------------------|--|---|------------------------------------|--|--|--|--|---|-------------|---|-------------------------------|---|--|---------|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | | | |
| コース基礎科目 | 情報創生プロジェクト(実習を含む) | ○ | | | | | | | | | | ○ | PHPとMySQLを組み合わせた動的なデータベース駆動によるWebデザインを実現する技術を習得する。 | | |
| | 環境アート | | | | | | | | | | | ○ | 空間を使い環境や地域活性化を意識した作品を作る。 | | |
| | 日本語概説 | | | ○ | | | | | | | | | この授業では、日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する。敬語一般の基礎的な知識を身につけること、敬語や配慮表現について取り上げ、実際に敬語研究に触れ、日本語の敬語について理解することを目標とする。これまで敬語、配慮表現に関連する日本語学各々で得られた研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、もの見方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。 | | |
| | 空間情報論 I | ○ | | | | | | | | | | ○ | GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図の図形情報にデータベース機能を結びつけた技術で、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で展開している。それにともなって、GISの専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。そこで本授業では、GISの基礎的な概念を初歩的な技術を理解することを目的とする。具体的には、空間情報科学の基礎的な概念を理解すること、GISの基本的な操作技術を理解すること、論文やレポートの執筆の際に必要な地図の作成と、基礎的な空間分析ができるようになることを到達目標とする。 | | |
| | 地域調査法A | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | | ◎ | ・ 文化人類学・民俗学的なフィールドワークの一連の流れを説明できる。 ・ 与えられたテーマに関する文献検索・収集を的確に行うことができる。 ・ 参与観察・インタビュー調査の基本的技法を修得し、フィールドで適用することができる。 ・ 適切な方法・形式で調査データを整理、加工できる。 ・ 社会調査・フィールドワークの倫理にかかる基本的な考え方を説明できる。 ・ 人文地理学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける。 ・ 文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・ 地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・ 社会調査とは何かを理解する。 | | |
| | 地域調査法B | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | | ◎ | 調査票調査の一連の流れを理解し、調査票の作成・調査実施・集計・分析までを的確に実施することができる。 ・ コンピューターによる文字・画像・動画データ処理の基本を実践できる。 ・ 質的データの整理・分析の手法を身に付け、具体的な事例に応用することができる。 ・ 論理的・効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・ 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。 ・ 文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・ 地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・ 簡単な統計分析ができるようになる。 | | |
| | 地域計画 I | ◎ | | | ◎ | ○ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | 都市計画とまちづくりの観点から、地域計画の方法や理論を学ぶ。単に知識を身につけるだけでなく、地域計画に対する提案までできることが目標となる。 | | |
| | 考古学調査法 | ○ | | | | | | | | | | | 発掘調査と出土資料の整理方法の基礎を学ぶ。 | | |
| | 日本史基礎研究 I | ○ | | | ◎ | | | ○ | | | | | 日本史理解の基盤となる史料の読解を到達目標とし、そこから歴史叙述につなぐことができる力を身につける。 | | |
| | 日本史基礎研究 II | ○ | | | ◎ | | | ○ | | | | | 近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を身につける。 史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようになる。 文献資料と地方史料の両方を史料として活用できるようになる。 古文書を読解できるようになる。 | | |
| | 東アジア社会文化研究 I | ○ | | | ○ | | | | | | | | 基礎的な漢文の句法になじみ、返り点にたよらずに簡単な漢文であれば意味をとり訓読ができるようになる。 | | |
| | 方言と社会 | | ○ | | | | | | | | | | ことばと地域、ことばと社会のそれぞれの関わりという点から考え、方言の特色について習得するとともに、自分がこれまでに使ってきたことばについて振り返り、ことばに対する興味をさらに深める。 | | |
| | 現代絵画論 | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | この講義は、近代から現代までの絵画理論の理解を深めることが目標であり、その理解を自分のものとするために、理論に基づいた簡単な実技を設定している。実際に描くことにより学歴だけでは得られない現代絵画の理解を深めることをめざす。 | | |
| 写真画像保存技術概論 | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | 表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。 | | | |

| 科目名 | ディプロマポリシー | 【1. 知識・理解】 | | | | | | 【2. 汎用的技能】 | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|-----|----------------|--|---|------------------------------------|--|--|--|--|---|-------------|---|--|---------|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | |
| | 総合情報研究 (実習を含む) | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | 文字や数値など各種データを処理するためのコンピューター技法を学ぶ。たとえばリレーショナルデータベースの基礎や、XMLやJSONなど、WEBアプリケーションと連携する方法を修得する。あわせて情報システムを構築・運用するために必要となる基礎的知識や技法についても身につける。 | |
| | 地域文化論 I | ◎ | | | | | | | | ○ | ◎ | 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。 | |
| | 福祉社会論 | | ◎ | | | | | ◎ | | | ○ | 福祉社会に関して、医療や家族との関連を中心に講義する。それにより、現在の福祉が直面する困難について理解し、各人の立場を持てるようにする。 | |
| | 比較社会論 | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | ◎ | 1. 移民の事情を学び国際社会を理解することができる。 2. 自国の文化と社会を相対化し、理解することを目指す。 3. 日本に住む外国人の事情を学び異文化理解を深める。 | |
| | 国際協力論 | ◎ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ◎ | 外国文化(異文化)の理解 現代社会や地域の課題を分析する能力の養成 国際感覚の養成 グループ・ワークの実施 | |
| | 市民活動論 | ◎ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ◎ | 社会運動の意義と運動のなかで培われた表現の文化を理解し、自由と平等という近代的な価値を実現するために必要な思考と実践の構えを身につけること。 | |
| | 日本語研究 | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | この授業では、日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。音声学に関する基礎的な知識を身につけること、日本語学各分野への興味をもつことを到達目標とする。音声学を科学的に追究するという姿勢を学び、音声学の研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、もの見方、とらえ方などを音声科学の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。なお、全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し、各自が資料収集にあたり、分析を行う。 | |
| | 応用日本語学研究 | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 方言テキストの読解や方言辞書、方言文法書の作成を通じて、日本語・日本文化の多様性についての理解を深める。方言テキストから簡潔な「文法書」「辞書」を作成し、言語習得、言語保存に必要とされる「3点セット」を構築する。 | |
| | 応用日本語学概説 | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 現代日本語の構造(しくみ)について、客観的に観察、分析、説明できる能力を身につけることを到達目標とする。現代日本語の文法構造を知ること、国語教師、日本語教師や日本語研究者など、3年次以降の日本語研究や、将来的な職業選択に生かすことも視野に入れる。 | |
| | 地域環境論(自然地理学) | ◎ | ○ | | ○ | | | | | ○ | ◎ | 自然地理学の根幹をなす地形学と気候学の基礎を理解し、授業に生かせる応用力と実践力を養うことを到達目標とする。地形環境とその歴史的变化の事例をあげて説明できる。自然現象に根ざした人間の生活の表象の一つである文化的景観の地域性・多様性を事例を挙げて説明できる。さまざまな気候環境と気象・天候さらには、農林水産業の地域性を関連づけ、かつ事例を挙げて説明できる。 | |
| | 地域文化論 II | ◎ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | ◎ | 日本民俗学の基本的な概念を理解し、説明できる。 現代社会における民俗の動態について、具体的な事例を挙げながら説明できる。 | |
| | 地域構造論(人文地理学) | ◎ | | | ○ | | | | ○ | ○ | ◎ | 地理学において最も重要な研究分野の一つである都市地理学の基本問題を扱う。「都市論」は、工学、経済学、社会学、歴史学、芸術等の幅広い分野において、かつてない大きな関心を集めるようになった。こうした思潮に先んじて、地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた。都市地理学と呼ばれる学問分野は、空間的側面から都市の機能や形態に注目し、これを系統立てて理解しようとする。本講義では都市をシステム論的な視点から把握し、都市と都市との関係(inter-urban system)と、都市内部における地域と地域の関係(intra-urban system)の二つの空間スケールから、都市形成のメカニズムを広く考察する。また、日本や世界の研究事例を幅広く取り上げ、現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう。 | |
| | 空間情報論 II | ◎ | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | ◎ | GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図の図形情報にデータベース機能を結びつけた技術で、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で展開している。それにともなって、GISの専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。そこで本授業では、空間分析の計画から、データの収集、GISを援用した空間解析、結果の発表までを自ら実行できることを目標とする。 | |
| | 地域変容論(地誌学) | ◎ | | | ○ | | | | ○ | ○ | ◎ | 絵図・地図の読図を通じて歴史の景観の成立・変容過程についての理解を深め、「地誌学」の命題である地域的特徴や地域的差異について把握できるようになること。 | |
| | 地域計画 II | ○ | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | 地域計画IIは総論として、IIは各論として位置づけられる。IIでは、特に過疎地域におけるまちづくりに焦点を当てつつ、悪条件下での地域づくりの理論や手法を学ぶ。これにより、地方にあってまちを維持するための条件を理解できるようにする。 | |
| | アフリカ地域研究 | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ | 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。 | |

| ディプロマポリシー | | [4. 統合的な学習経験と創造的思考力] | | | | | | | 科目の教育目標 |
|-----------|----------|--|---|------------------------------------|---|--|--|---|---------|
| | | [1. 知識・理解] | [2. 汎用的技能] | | | [3. 態度・志向性] | | | |
| 科目名 | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力。他者とコミュニケーションする能力。プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | |
| | 地域政策論Ⅱ | ◎ | | | ◎ | | ◎ | 地域政策の中でも、この講義では観光政策を取りあげ、政策の立案・決定・その効果や評価について学ぶ。観光という切り口から、文化、社会、経済の関連について具体的なイメージを持って分析することを目標とする。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 調査チームの中で討議を重ねつつ、具体的な調査計画を立案することができる。 調査テーマに関する文献資料を的確に収集することができる。 文献の内容を要約し、その骨子を適切に報告することができる。 フィールドにおいてインタビュー調査、観察調査を的確に実施することができる。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 文化人類学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、「対象地域の設定」「調査の準備」「現地調査」「調査結果の分析」「結果の発表・まとめ」までを、実践的に学び、地域調査の理論と方法を修得することを目的としている。また空間情報科学(GISを含む)の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | 福祉に関わる団体の調査を通じて、質問紙調査の手法を学ぶ。同時に、そのうち重要な団体には聞き取り調査をすることで、インタビューの手法も学べるようにする。 | |
| | 地域調査演習A | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 統計的な分析の準備までできるようにする。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | フィールドにおいてインタビュー調査、観察調査を的確に実施することができる。 調査で得られたデータを適切な形で整理、分析することができる。 調査結果を論理的で客観的な文章にとりまとめることができる。 調査結果を論理的・効果的な形でプレゼンテーションできる。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 文化人類学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | 地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、「対象地域の設定」「調査の準備」「現地調査」「調査結果の分析」「結果の発表・まとめ」までを、実践的に学び、地域調査の理論と方法を修得することを目的としている。また空間情報科学(GISを含む)の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | 福祉に関わる団体に対する質問紙調査のデータをもとに、統計的解析の手法を身につけるようにする。また、インタビューデータのまとめ方や活用の仕方をも身につけるようにもする。 | |
| | 地域調査演習B | ◎ | ○ | | ○ | ○ | ◎ | この実習の目的は、社会運動参加に関する量的データの整備とデータ解析により、1) 量的データを自分たちでも作成することで手順を学ぶこと、2) 社会運動への参加と感性・意識の関連について理論的知識をもとにデータで検証できるようにすることにある。前期には主に1)を、後期には主に2)を中心に行うことで、1年を通して量的データの作成から分析に至る手順を身につけてもらう。具体的には、3.11以後の社会運動に対する参加を課題としたサーベイデータを用いる。このデータは、回答者が数値でなくテキストで入力したもののコーディングがなされていない。前期に実施する演習Aでは職業コーディングを完成させ、アフターコードの仕方なども学ぶ。後期で行う演習Bでは、分析に使える状態にまでデータを整備した前期の作業を踏まえて、実際の分析の仕方を身につけていく。 | |
| | 日本史研究Ⅱ | ◎ | ◎ | | | | ○ | 日本の歴史、特に近世・近代を素材として、歴史的に考える力を身につける。また、そこから歴史的特質を読み取る力を身につけ、さらには歴史と文化に対する理解を深めることを到達目標とする。特に史料に基づいて論点を提示し、論理的に説明できるような事を目標とする。 | |
| | 日本史基礎研究Ⅲ | ◎ | | | ◎ | | | 史料の読解、「読み」(字の解読・訓点)と「理解」(意味・様式の把握) | |
| | 日本史基礎研究Ⅳ | ◎ | | | ◎ | | ○ | 日本近世の古文書史料を解読できるようになる。 日本近世の古文書史料から歴史的事実を抽出できるようになる。 歴史的事実を実証的に分析する能力を習得する。 | |
| | 考古学調査演習 | | ○ | | ◎ | | ○ | 考古学を研究する上で、必要不可欠な技術である発掘調査に参加することを通して、その方法を学ぶ。 | |
| | メディア表現 | ○ | | | | ○ | ○ | メディア表現について理解し、作品制作ができるようになる。 | |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|----------------|-----------------|--|---|--|--|---|----------------------------------|---|--|--|--|--|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | | | | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | |
| 科目名 | メディア情報研究(実習を含む) | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | マルメディアを活用した表現・処理に関する知識・技術を習得する。プログラミングによるマルメディアコンテンツ作成手法を学ぶ。 | |
| | 映像デザイン | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ・デザインの派生から通時的な役割の変遷を理解する。 ・発想や構想に関する基礎的なデザイン思考の方法論を身に着ける。 ・色や形など、造形言語による視覚伝達表現や、情報伝達に関わる発想や構想、また用途や機能などを考慮した意匠など、デザインの技法と能力に類しむ。 ・映像メディアの役割を理解し、映像デザインの視点から問題発見、問題解決にアプローチできる。 ・上記のデザイン方法論を美術科の目標に接続できる知識と経験を身につけるようになる。 | |
| | アート表現基礎 | ○ | | | | | | ○ | | | この授業は、イメージ力を鍛え、制作を通して表現を考える授業である。絵画表現をする上で基礎となる知識や技能を身につけることが到達目標である。 | |
| | 工芸表現と技法 | ○ | | | | | | ○ | | | 工芸と純粋美術の違いは、絵画や彫刻のような純粋美術が生活の中での使用目的を全く持たないことに対し、工芸品は陶芸、手芸、木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる。しかしながら、最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ、純粋美術に近づいてきている。工芸について理解した上で、現代工芸のあり方を探ると共に、工芸の実技を通して素材への理解や道具を使用する基本的な能力を身につけることを到達目標とする。 | |
| | 彫刻研究 | | | | | | | | ◎ | ○ | 彫刻の基本的な手法、彫刻の歴史や技法の移り変わりについて身につけてもらう。そのうえで、実際に彫刻を作成することで、必要な技法を習得できるようにする。 | |
| | 美術概論 | | | | | | | | ◎ | ○ | 美術の歴史から、どのような美術の流れが存在し、それぞれにどのような意味があるのか、体系的に理解してもらう。 | |
| | データ表現研究 | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | データを要約するために必要となるアルゴリズムを習得する。また、これをプログラミング言語で実装するための基本的技術を身につける。 |
| | 芸術創生基礎演習 | ○ | ○ | | | | | | ◎ | ○ | | アートをキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献できる地域に相応しい作品を構想、制作することで、美術表現の幅を広げる。 |
| | メディア情報論 | | | | | | | | ○ | ○ | | メディア芸術の理解 |
| | 日本語演習Ⅰ(地域言語学) | ◎ | ◎ | | | | | | | | ◎ | さまざまな方言およびその動態について、社会言語学的な視点から明らかにする。実際に言語調査を行い、その結果を分析することによって、社会言語学的な調査研究のあり方を総合的に理解できるようにする。 |
| | 日本語演習Ⅰ(社会言語学) | ○ | ○ | | | | | | | | | 日本の若年層における言語動態について、社会言語学的な視点から明らかにする。実際に言語調査を行い、その結果を分析することによって、社会言語学的な調査研究のあり方を具体的な体系的に習得することを目標とする。 |
| | 日本語演習Ⅱ(地域言語学) | ◎ | ◎ | | | | | | | | ◎ | さまざまな方言およびその動態について、社会言語学的な視点から明らかにする。実際に言語調査を行い、その結果を分析することによって、社会言語学的な調査研究のあり方を総合的に理解できるようにする。 |
| | 日本語演習Ⅱ(社会言語学) | ○ | ◎ | | | | | | | | ◎ | 1. 日本語の世代差、特に若年層の言語動態について理解する。 2. 日本語の地域差、特に四国、徳島における方言の差異、共通語化について理解する。 3. 社会言語学的な言語調査の実施とその分析を通して、言語研究のあり方を具体的に、実践的に学ぶ。 4. 地域の日本語、特に徳島における外国人の言語実態について、具体的に理解する。 5. 徳島における外国人の日本語習得について、その現場を知り実践の一助となる。 6. 日本語教育に実際に関わることで、地域の国際化のあり方について具体的、実践的に学ぶ。 |
| | 絵画表現演習Ⅰ(水性木版画) | | ◎ | | | | | | ◎ | | ◎ | 描く行為は直接的技法であり、手の動きと密接に結び付いている。しかし、絵画がただ単に現実空間を写す行為でなくなった現代の美術では積極的に間接的技法を作品に取り込むようになってきている。この授業では間接的技法として木版画を制作し、間接技法の多様な経験を積み上げ、表現に広がりを持たせることを目標とする。 |
| 絵画表現演習Ⅰ(油性木版画) | | ◎ | | | | | | ◎ | | ◎ | 描く行為は直接的技法であり、手の動きと密接に結び付いている。しかし、絵画がただ単に現実空間を写す行為でなくなった現代の美術では積極的に間接的技法を作品に取り込むようになってきている。この授業では間接的技法として木版画を制作し、間接技法の多様な経験を積み上げ、表現に広がりを持たせることを目標とする。 | |
| 絵画表現演習Ⅱ(平面表現) | | ◎ | | | | | | ◎ | | | 絵画表現の基礎的な技法を身につける。そのうえで、自己表現としての絵画表現に必要な条件を、実際の政策過程を通じて学んでもらう。 | |

コース応用科目

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 |
|------------------------------|--|--|---|------------------------------------|---|--|--|---|--|---|-------------|--|----------------------|--|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力。他者とコミュニケーションする能力。プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけて、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | | |
| 絵画表現演習Ⅱ (造形表現) | | | | | | | | | | | | | | 絵画表現の基礎的な技法を身につける。そのうえで、自己表現としての絵画表現に必要な条件を、実際の政策過程を通じて学んでもらう。 |
| デザイン表現演習Ⅰ (映像とデザイン) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。 |
| デザイン表現演習Ⅰ (視覚伝達デザイン) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 造形言語の基本を理解し、メディアコンテキストの読み解き能力や制作能力を身につける |
| デザイン表現演習Ⅱ (デザイン表現におけるテクノロジー) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。 |
| デザイン表現演習Ⅱ (映像メディア表現) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | メディア表現に関わるテクノロジーやデザイン表現手法に親しみ、実践手法を身につける |
| メディア表現演習Ⅰ (メディアアート) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。 |
| メディア表現演習Ⅰ (インスタレーション) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。 |
| メディア表現演習Ⅱ (インタラクション) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | メディアアート表現の理解と作品制作 |
| メディア表現演習Ⅱ (映像表現) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | メディアアート表現の理解と作品制作 |
| メディア情報演習Ⅰ (バーチャルリアリティ) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | VRのコンセプトについて学び、VRの意義について考察する。VRを構築する手法としての空間シミュレーションを作成できるようになる。 |
| メディア情報演習Ⅰ (3DCGシミュレーション) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | VRのコンセプトについて学び、VRの意義について考察する。VRを構築する手法としての空間シミュレーションを作成できるようになる。 |
| メディア情報演習Ⅱ (空間デザインへの応用) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 情報通信技術の空間デザインへの適用をテーマとした卒業研究を行うための知識、スキルを習得する。 |
| メディア情報演習Ⅱ (システム評価) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 情報通信技術の空間デザインへの応用をテーマとした卒業研究を行うための知識、スキルを習得する。 |
| 情報創生演習Ⅰ (WEBアプリケーション) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 応用的なプログラミング技法と、それらに適したアルゴリズムを自ら実装する方法を修得する。 |
| 情報創生演習Ⅰ (オープンソース開発) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 非定型的なデータを処理するアルゴリズムとそのプログラミング実装する方法を修得する。 |
| 情報創生演習Ⅱ (データ・マネジメント) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 応用的なプログラミング技法と、それらに適したアルゴリズムを自ら実装する方法を学ぶ |
| 情報創生演習Ⅱ (データ可視化) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | ○ | 非定型的なデータを処理するアルゴリズムと可視化のためのプログラミング実装を学ぶ |
| 地域総合演習Ⅰ | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | | | ◎ | 先行研究の整理をふまえた上で、適切な研究テーマを設定できる。文化人類学・民俗学の基本的な理論・分析枠組について理解し、研究に活用できる。適切な調査研究計画を立案、堅実に実施することができる。インタビュー調査・観察調査・文献調査を適切に実施し、分析に必要なデータを収集することができる。収集したデータを適切な手法で整理、分析することができる。調査研究の成果をまとめ、論理的・効果的な形で発表することができる。適切かつ十分な資料・データをもとに、論理的、実証的で説得力あるレポートを作成することができる。 |
| 地域総合演習Ⅱ | | ◎ | ◎ | | | ◎ | | | | ◎ | | | ◎ | 先行研究の整理をふまえた上で、適切な研究テーマを設定できる。文化人類学・民俗学の基本的な理論・分析枠組について理解し、研究に活用できる。適切な調査研究計画を立案、堅実に実施することができる。インタビュー調査・観察調査・文献調査を適切に実施し、分析に必要なデータを収集することができる。収集したデータを適切な手法で整理、分析することができる。調査研究の成果をまとめ、論理的・効果的な形で発表することができる。適切かつ十分な資料・データをもとに、論理的、実証的で説得力ある卒業論文を作成することができる。 |
| スポーツ経営学 | | ◎ | | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | 1.実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける |
| 商法Ⅰ | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 商法Ⅰでは、株式会社制度の特徴およびその機関について講義を行う。講義全体を通じて、会社法がどのように利害関係者間の私的利益を調整しているか理解するとともに、大規模公開会社における株主総会の意義、取締役会の役割、代表取締役の業務執行の在り方、取締役の会社責任の意義および問題点、監査役・会計監査人制度の在り方といった個別の問題について考える。 |

| ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | 【2. 汎用的技能】 | 【3. 態度・志向性】 | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | 科目の教育目標 | | | |
|-----------|----------------------|--|---|------------------------------------|--|--|--|--|---|
| | | | | | | | 科目名 | | |
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力。他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | |
| | 民法 I | | | | | | | | 1.民法総則および物権総論に関する基本的な知識を習得すること 2.具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと 3.民法典の全体像を理解すること |
| | 財政学 I | ○ | | | | | | ○ | 財政学の基礎的な理解を得る。 |
| | 行政法 II | | | | | | | | 1. 行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力をさらに深める。 |
| | 平和学 | ◎ | | | ○ | | ○ | ◎ | 1. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 2. 国際政治と国際法の基本的知識を得る。 3. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 4. 平和で公正な世界の実現に向け、意欲と行動力を発揮することができる。 |
| | 比較文化研究 | ○ | | | | | ○ | | 比較文化研究についての理解とその方法の習得、多文化社会と文化変容への理解を深めること |
| | スポーツ社会学 | ◎ | | ○ | | | ○ | ○ | 地域のスポーツ振興に対する社会基盤整備について理解する |
| | 現代日本社会論 | ○ | | | | | ○ | | This course helps students to broaden perspectives by considering some important issues affecting Japanese society. |
| | 東アジア社会文化研究 II | ○ | | | | | | | 基本的な句法・語彙の文であれば、訓点のついていない原文であっても、訓読によっておおよその意味をとれるレベルを目指す。また、自分が関心を持ったキーワードに即して、儒教思想の特色を説明できるようなることを目指す。 |
| | グローバル・ヒストリー(イギリス近代史) | ○ | | | | | | | 1. 歴史学による対象への基本的なアプローチ方法を理解できる。 2. 現代のグローバル社会の歴史的起源について理解し、現在の自己の立ち位置を歴史的バースペクティブを踏まえて理解できる。 |
| | 北米地域研究 | ○ | | | | ○ | ○ | | 「自由」や「平等」といった理念が「人種」といった要因によって歪曲されてきた歴史を踏まえ、現代における人種問題の諸相について理解を深める。 |
| | ヨーロッパ史研究 | ○ | | | | | | | 西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なバースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。 |
| | 環境倫理学 | ○ | ○ | | ○ | | | | 1. 環境倫理学を中心に、人文科学に関する幅広い知識と理解を獲得する。 2. 日本語で論理的文章を書く能力を獲得する。 3. 高い倫理観の涵養に必要な知識の獲得と思考能力を獲得する。 |
| | 計画の論理 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | 社会基盤施設の定義と特徴、社会基盤整備計画の枠組みや策定過程が示せ、計画に必要な予測手法や評価手法について説明することができることを到達目標とする。各回の授業内容は計画に記載のとおりである。授業を受講し、おさらいプリントをすべて提出した上で、その内容を復習することによって目標を達成させる。 |
| | 環境を考える | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | 人と環境のかかわりの変遷や環境問題に関する基礎的な知識を習得している。(授業計画1～15および定期試験による) |
| | 自然災害のリスクマネジメント | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | 1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。 2. リスクマネジメントの基本と防災を進める上での要点を理解する。 |
| | 生態系の保全 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | 1. 持続可能な社会の創造を担う技術者を目指す者として、従来型の社会発展の論理によってもたらされた生態系や生物の多様性の危機的現状を認識し、健全な生態系を保全・修復していくことの必要性を自覚している。 |
| | 都市・交通計画 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | 都市計画に関する基礎的な知識を修得する。(1～6回)交通計画に関する基礎的な知識を修得する。(7～14回) |
| | 最適化論 | | | | | | | | システムを最適化する意義と方法について理解する。 |
| | データベース基礎論 | | | | ○ | | | | リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること データベースを構築できること SQLの基本的事項を習得し、データベースへの質問文をSQLで書くことができる |
| | 計算機概論 | | | | ○ | | | | 情報処理機器として身近な、パソコンの動作原理の基礎知識をハードソフトの両面から身につける。またネットワークに関する基礎知識を身につける。情報処理技術者試験(午前)程度の内容を理解している。 |

《総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

| 科目名 | | ディプロマポリシー | | 【1. 知識・理解】 | | | 【2. 汎用的技能】 | | | 【3. 態度・志向性】 | | | 【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】 | | 科目の教育目標 |
|------|-------------------|--|---|------------------------------------|--|--|--|--|---|-------------|---|---|----------------------|---|--|
| | | 地域社会や地域文化、情報メディア、芸術表現などの専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 | (1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を身につけている。 | (3) 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決を図ることができる。 | (1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | (2) 社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。 | 総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。 | | | | | | | |
| | 計算機数学 | | | | | | | | | | | | | | 有限オートマトンの基本的事項(決定性、非決定性、正則表現)、状態数最小化、文法とオートマトンの関係、Turing機械、判定不能性を理解する。 |
| | ネットワーク論 | | | | | | | | | | | | | | ネットワークに関する知識や設計技法の習得、および、それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする。 |
| | 制御概論 | | | | | | | | | | | | | | 連立線形微分方程式の解を求めて、相平面軌道が描けるようになること 微分方程式の平衡点の安定性を判別できるようになること 状態フィードバックによる極配置ができるようになること |
| | 現象数理1 | | | | | | | | | | | | | | 1. 様々な現象を数理モデルによって理解・表現できる。 2. 様々な現象を情報科学モデルにより理解・表現できる。 3. 現象を表現するためのモデルを情報科学の知識に基づき評価できる。 |
| | コンピュータ・グラフィックス基礎論 | | | | | | | | | | | | | | コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し、コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする。 |
| | 知的財産の基礎と活用 | | ○ | | | | | | | | | | | | 1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 学部や大学院で実験を行う際に知っておきたい知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。 |
| | 地域経済論 | | ◎ | | | | | | | | | | | | 農林水産業を中心とした地域資源(農地、林野、漁場等)が歴史的に見た使われ方について説明できるとともに、グローバル経済の下での経済環境の変化について理解して、新しい利用について語れる。 |
| 卒業研究 | 卒業研究 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ・卒業論文を完成させるために必要な知識を獲得すること ・一年間を通して学部で勉強した知識を文書化し、卒業論文を完成する ・テーマを設定し、卒業論文にまとめる ・卒業論文を作成できる |